

「地元企業が開発した検査キットについて」

地元の企業がPCR検査に必要となるウイルス遺伝子を唾液から抽出する工程を従来の約1時間から3分に短縮できる検査キットの受託生産を始めると6月に報道されました。検査対応の迅速化につながり、感染防止につながるすぐれた製品であると思われませんが、これらの検査キットの本市の使用状況等についてお聞かせください。



「金沢の元気回復商品券について」

金沢の元気回復商品券と称して、その支援事業に3億3,200万円が本9月定例会月議会の補正予算案に示されました。平成27年発行の金沢市のプレミアム商品券は、市民お一人3冊まで、商店街に属するお店やデパートなどで使用可能といったものでしたが、今回は各商店街が主体となって発行すると伺っております。この金沢の元気回復商品券に込めた思いと詳細についてお尋ねします。



※経済環境常任委員会において、市民から頂いた声として、プレミアム商品券の取り組みについて促してまいりました。

「グレート・リセットについて」

世界経済フォーラムのシュワブ会長は、2021年のダボス会議のテーマを「グレート・リセット」に決定しました。「新型コロナウイルス感染の危機は、地球上のあらゆる場所にまで影響を及ぼしているが、悲劇だけがその遺産ではない。それどころか、パンデミックはより健康的で、より公平で、より豊かな未来を創造するために、私たちの世界について考え、再考し、リセットするため、貴重な機会になっているから」と述べ、さらに「世界の社会経済システムを考え直さないとけない。第2次世界大戦後から続くシステムは異なる立場の人を包み込めず、環境破壊も引き起こしている。持続性に乏しく、もはや時代遅れとなった。人々の幸福を中心とした経済に考え直すべきだ」また、「資本主義という表現はもはや適切ではない。金融緩和でマネーがあふれ、資本の意味は薄れた。今や成功を導くのはイノベーションを起こす起業家精神や才能で、むしろ才能主義と呼びたい」と述べておられます。

◎9月議会のその他の質問

新型コロナウイルス感染症対策／新型コロナウイルス感染拡大に対する経済対策／市内中心部のまちづくりについて／コロナ禍の災害対策について

詳細は、市議会議事録HPを御覧ください。

〔市長の答弁〕

本市保健所では、新型コロナウイルスのPCR検査につきましては、国立感染症研究所の病原体検出マニュアルに従って実施しており、試薬等も、ここで示されたものを使用している。しかしながら、仰せの検査キットはマニュアルには記載がなく、本市では使用しておりません。今後とも、より効率的な検査を実施していくため、新しい試薬についても研究していきたい。

〔市長の答弁〕

既に商店街でいろんな工夫をされていらっしゃるが、それを促していきたい。ただ、それぞれの地域地域の商店街で特色が全く違う。飲食が中心の商店街もあれば、物販が中心の商店街もあれば、サービス業が中心の商店街もあれば、商店街の店舗が少ないところもあれば多いところもある。まちまちですので、各商店街に工夫していただきたい。複数の商店街で連携した提案でもよい。1万円で1万3,000円の買物ができる、そんなプレミアム相当分を補助していきたい。そのことを通して、各地域における消費喚起につながることを期待している。

〔市長の答弁〕

このコロナ禍において、様々な価値観や生活様式も改めて見直す、そんな機会になったと思っている。グレート・リセットというのは、大きな転換点ということを意味していると思っている。本市は、コロナ以前から新産業創出ビジョンを策定し、第4次産業革命を見越した地域経済の持続的な成長と市民の快適な暮らしの向上を目指し、取組を進めている。方向性としては、このコロナ禍において、この取組をさらに加速させていかなければならない、そんな思いを強くしている。そこで、今補正予算にも、窓口等でのキャッシュレス決済の導入、ICTを活用した保育のモデル事業を提案したところで、コロナ禍における社会情勢の変化も踏まえ、新たな取組を行っていきたい。

ウィズコロナ時代のキーワードにもなるとされるグレート・リセットについての市長のご見解をお聞かせください。



新型コロナウイルスの感染が始まってから、一刻も早い対応を促すために、有志議員5名による感染対策に関する市長宛の要望書を14回に渡り提出してきました。市当局には、その都度、丁寧なご対応を頂き、感染予防対策に前をすすめることができました。

皆様からのご意見、心よりお待ちしております。

info@kumanomorio.com

くまのもりお事務所

TEL.076-256-3757 FAX.076-256-3836

金沢市みどり2-6-2 〈自宅〉金沢市松村7丁目36-13

金沢市役所〈創生かなざわ〉

TEL.076-220-2448 FAX.076-223-0116

金沢市広坂1-1-1

発行／金沢市議会議員 熊野盛夫

HP随時更新!→ <http://kumanomorio.com>



明けない夜はない。

新型コロナウイルスの感染拡大によって、世界中の人々が翻弄され、価値観の転換を迫られたこの1年。

中国武漢市で世界初の感染が確認された新型コロナウイルス。

確固とした医療的処置がないまま史上初の速さで世界中がパンデミックの状態に陥りました。さらに、基礎疾患のある方や、高齢者を中心に、予測不可能な急激な症状の変化を伴い、死に至る方も世界中で増加しました。しかし、感染症対策の基本であるマスクの着用、こまめな手指の消毒、3密の回避により、ある程度、抑え込むことができたように思われました。それでも、現在に至っても、感染経路不明の感染者は後を絶ちません。ワクチン接種が世界各国で始まり、減少傾向に向かったかにみえましたが、1ヶ月後には増加に向かい、WHOのテドロス事務総長は、ワクチン頼みを戒めました。

また、人類はこれまで、航空技術の進化により、大量の人の高速移動を可能とし、飽くなき探究心で資源を追いかけてきました。それらの行為は、生態系にも大きな影響を及ぼしました。新型コロナウイルスの出現は、私達一人ひとりに価値観の転換を迫っています。大切なものはなにか。なんのために生きているのか。そのままの価値観でよいのか。何を変え、何を変えずに貫いていくのか。難しい問題です。共に考え、ともに手を取り、ともに乗り越えていきましょう。明けない夜はない。その言葉を信じて。

最後になりましたが、医療関係従事者はじめエッセンシャルワーカーの皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。



金沢市議会議員
熊野盛夫

「中小零細企業・飲食業・商店街・宿泊業の支援について」

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、お亡くなりになられた多くの方に心より御冥福を申し上げます。また、国内外で感染された方々の一日も早い御回復を心よりお祈り申し上げます。

金沢市は、地元から感染者が出たことから、県と連携し、さらなる感染防止対策に積極的に取り組んでいます。しかし、まだまだ先が見えない中、大きな痛手を被っているのは経済。特に足腰の弱い中小零細企業、また、飲食業、小売を中心とした商店街です。政府は、緊急記者会見で、これらの中小企業等への対策について触れましたが、矢面に立つ市の役割は最重要です。金沢市としての対策と今後の取組について、お聞き致します。また、ホテルなどの宿泊施設等へのマスク、消毒液の安定供給についてもお聞き致します。

〔市長の答弁〕

国が実施する中小企業への資金繰り対策、設備投資、販路開拓の優先的な支援について、本市ホームページにおいて制度周知を行うとともに、金融相談員による相談業務や国のセーフティネット保証制度の認定受付を行っている。国や県の支援策の内容も踏まえ、市としても迅速に対応を講じていく。

マスク、消毒液は、本市だけでなく、全国的にその不足が課題である。今、国のほうでも、製造や流通業界に円滑化を促しているが、引き続き、市としても、全国市長会等々を通して、基礎自治体の声を繰り返し上げていきたい。

金沢市の気候変動対策について(その一部)

近年、北陸地域でも太陽光や風力による再生可能エネルギー発電設備の増加により、地元北陸電力は、今後、再生可能エネルギー事業者などに対し出力規制を実施する意向を示しています。グリッドに接続した再生可能エネルギー導入を考えている事業者にとって、出力規制は経済的デメリットであり、市としての対応をお聞かせください。



価値創造拠点について

私は、内閣府が、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く目指すべき新たな社会として位置づけたSociety5.0について、そのキーワードは最適化ではないかと思っています。

また、国土交通省は、Society5.0とスマートシティーの関係について、スマートシティーはSociety5.0の総合的なショーケースと提示しています。そして、エネルギーをはじめとした個別分野特化型の取組から、官民データ、ICT、AIを活用し、交通、観光、防災、健康、医療、エネルギー、環境等、複数分野にわたる分野横断型の取組への移行をうたっています。そこから、さらにモデル事業で取組を加速し、将来的に全国の都市に標準装備として展開することを目指しています。つまり、Society5.0が

〔市長の答弁〕

昨年12月、北陸電力から、電力の安定供給を維持していくため、国の指針に基づいた再生可能エネルギーの出力制御が必要との考えを示された。ただ、現時点において、直ちに出力制御が必要となる状況ではないというふうに向っており、今後の動向を十分に注視していきたい。

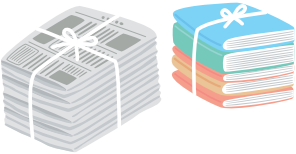
まちづくりの核になっていくと私は理解しております。そういった意味において、金沢市が新たに建設を進める価値創造拠点とSociety5.0の関係、位置づけについてどのようなお考えなのかをお聞かせください。

〔市長の答弁〕

Society5.0の総合的なショーケースとなるのが、私は価値創造拠点というふうにも思っている。新産業創出ビジョンと同じベクトルにあるというふうにも思っており、しっかりと取り組むことによって、価値創造拠点から金沢のSociety5.0が始まっていくんだ、発信していくんだ、そんな施設に、これから民間の皆さんと協力をしていきたい。

古紙の集団回収及び資源回収の支援制度の拡充について

当初予算で計上された古紙の集団回収及び資源回収の支援制度の拡充について、具体的にお示しください。



〔市長の答弁〕

実施団体への奨励金を明年度から、キロ当たり4円から6円に増額したい。また、古紙回収業者への助成制度も始めたい。金属や小型家電などの資源回収に当たりましては、キロ当たり3円から8円に奨励金を増額していきたい。

※資源回収の奨励金のアップは、地域コミュニティの活性化につながります。これまでも本会議、委員会等で質問してきました。

◎3月議会のその他の質問

学校図書館司書の増員について／民間提案制度の策定について／子供ソーシャルワーカー増員について

詳細は、市議会議事録HPを御覧ください。

令和2年度 金沢市議会 4月臨時会

令和2年4月28日(火)

介護事業所におけるリスク管理について

感染率が全国的に非常に高い金沢市において、介護事業者の懸念も相当なものと思われます。その懸念を払拭するために、また、介護事業所から感染者を発生させないために、金沢市が介護現場をどのように認識し、どのようなリスクや課題があり、それらに対しどのような指導や助言をされているのかは非常に重要です。リスクについては、利用者や職員の動向が鍵を握っているのではないかと現場の職員の方からお聞きいたしました。それら利用者、職員の動向も踏まえて、リスク管理についてお尋ねいたします。



〔市長の答弁〕

介護事業所における感染拡大防止には、感染の疑いについて、より早期に把握することが重要だと思っている。そのため、利用者については、毎日の体温計測などの健康観察と、また、複数の事業所を利用している場合には事業者間の情報共有等を、職員については、出勤前の健康観察と、やはり複数の事業所を兼業している場合には兼業先の把握等を行うよう、各事業所に対しましては指導してきているところであり、今後とも、こうした指導の徹底を図り、感染防止に取り組んでいく。

学習格差について

3月の臨時休校に続き、本年度は年度初めからの休校となりました。休校状態が続く中、学習する子としない子の学習格差についての懸念の声も届いております。それらの懸念への対応をお聞かせください。



◎4月臨時会その他の質疑

感染症拡大対策について／地域経済緊急対策について／子どもの健康と保護者の安心について／市長の政治判断と責任について

詳細は、市議会議事録HPを御覧ください。

令和2年度 金沢市議会 6月定例会月議会

令和2年6月8日(月)～6月22日(月)

オンライン授業から見える教育の将来展望について

コロナ禍において、報道等では9月入学についての議論もされておりましたが、それ以前から日本の教育の課題として受験というものがありました。各学校は定員を定め、受験によって学力を調べ、合否を決め、入学を認める、あるいは認めないとするものです。なぜ定員を定めるのか、学校の規模や教室数、先生や教授の数に限られているからです。しかし、コロナ禍におけるオンライン授業は、これまでのそういった概念を壊す可能性があると考えられます。現在、幾つかの学校で開催されているオンライン授業は、クローズなものもありますがオープンなものもあります。つまり、公開されているオンライン授業は、アクセスする環境さえ整っていれば、これまでの常識では考えられない多くの人が閲覧可能になるのです。学びたい人を受験によってふるい落とすのではなく、学びたいと思う人が皆学ぶことができる時

代の前夜ではないかと思われます。それでも、オンラインで全てが伝わるのか、空間を共有する意味、共に学ぶ仲間との絆など、課題はそれなりに幾つも出てくると思われます。それでもオンライン授業が与える可能性とインパクトは底知れぬ大きさがあると思われます。オンライン授業から見える教育の将来展望について、お聞きいたします。

〔教育長の答弁〕

今回、臨時休業におきましては、学習支援ツールを活用してのオンライン授業や、独自に作成した動画の配信によって、これまでとは違った新しい授業の在り方を経験した。今後は、臨時休業中の学びを止めないために、オンライン授業の研究をさらに深め、学習保障に資していく。

防災に関して

金沢市は新型コロナウイルス感染症の関連情報をダイレクトに届けるべく、広く市民にLINEアプリのダウンロードを呼びかけました。この金沢市と市民のLINEによるダイレクトなつながりは、今後の災害時の情報発信にも有効に活用できると考えられます。現在のところのダウンロード件数と今後の災害時の活用についてお聞きいたします。



◎6月議会のその他の質問

SNS相談窓口の設置について／コロナ禍の金沢市の委託事業等について／コロナ禍の教育現場について
金沢美術工芸大学の学生に対するコロナ禍の支援について／金沢林業大学校について

詳細は、市議会議事録HPを御覧ください。

〔市長の答弁〕

4月から導入したLINEアプリについて、登録ユーザーは8,000件を超えた。ほぼ毎日、まずは新型コロナウイルス感染症関連の情報を発信しているが、これからは様々な情報、まさに災害時の活用についても、既存のシステムとの連携を図りながら、その機能を十分に生かしていきたい。



金沢市のLINE